

Let' s try! 夢中で学ぶ やごひがっ子(2年目) ～自律して学び続ける子どもの育成を目指して～

1 はじめに

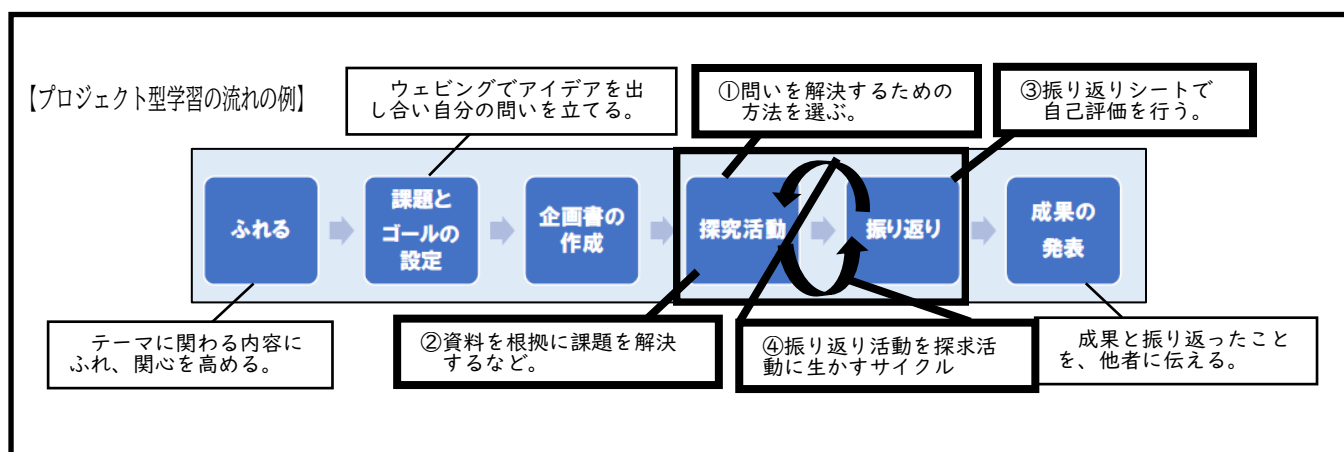
令和5年9月、名古屋市では、全ての子どもが学びを通して自分らしく、幸せに生きていくことができるよう、学びの基本的な考えが示された「ナゴヤ学びのコンパス」が策定された。子どもたちが必要に応じて、仲間や大人の力を借りたり、自分の力を貸したりする「ゆるやかな協働性」のもとで一人一人が「自律して学び続ける姿」を目指したい子どもの姿とし、そのために重視したい学びの姿として「自分に合ったペースや方法で学ぶ」「多様な人と学び合う」「夢中で探究する」の三つの姿が示されている。また、これまでの子ども観を問い直し、「全ての子どもは生まれながらにして有能な学び手」であるという子ども観を大切にしている。

本校では、令和6年度より研究主題を「Let' s try! 学びを楽しむ やごひがっ子」とし、「自律して学び続ける子ども」の育成に取り組んできた。生活科や総合的な学習の時間の単元の中で、プロジェクト型学習の要素を取り入れたり、子どもの課題解決に向けた教育活動をしったりすることを通して、各学年で多くのトライする児童の姿が見られた。

2年目の今年度は、「Let' s try! 夢中で学ぶ やごひがっ子～自律して学び続ける子どもの育成を目指して～」とし、夢中で探求活動に励む児童を育成する。そこで、昨年度プロジェクト型学習で実施した探求活動、振り返り活動の充実を図るとともに、振り返り活動が、次の探求活動に生かせる取り組みを構築する。その活動を繰り返し実施することで、児童は課題の解決法を学び、楽しみ、自らの力で課題や問題を解決できず自律して学ぶ児童を育成することができると考える。

2 研究の手立て

(1) 児童像にせまる手立て



低（1～3）学年、高（4～6）学年に応じて、夢中で学ぶ自律した児童像を設定する。さらに、児童が夢中で探求活動を行うために、自分が考えた方法で解決できること。また、解決するための対話や教師による改善策によって、課題を克服できるようにしたいと考える。そこで、今年度は、「プロジェクト型学習の流れ」の①～②探求活動、③振り返り、④振り返り活動を生かした探求活動のサイクルの4つを重点的に行う。

(2) 探求活動の工夫

①・② 自分の問いを解決する方法を理解し、それを基に課題を解決する。【学びの方法の理解】

与えられた課題や自ら考えた問いを解決するためにタブレット端末、教師が与えた複数の資料の中から、課題解決のための資料を選ぶなど、自らの答えの根拠となる方法や資料を基に自分の考えをまとめる。

③ 振り返りシートで自己評価を行う。

「なごや学びのコンパス」を実践する以前から、振り返り活動を実施していた。しかし、本実践では、学びの進捗状況を3段階で評価する。また、評価が低い児童や、学びの方法に迷っている児童に対して具体的な改善策を書き入れる。

※ 支援策【助言例】

外国語・・・「自信をもって発音するためには、教師の口の形を見たり、舌を前歯の後ろにつけたりするといいよ」
体育・・・「台上前転をするには、腰を上げることが必要、そのためにジャンプする時に足をそろえて腰を上げてみよう」

社会科・・・「地租改正をして税金を集め、集めた税金で官営工場を運営して、富国強兵政策を成功させたね。他の政策も関連付けて、富国強兵を説明してみよう」

④ 振り返り活動を探求的な活動に生かすサイクル

教師は学習方法を考えたり、まとめを終えたりした児童に対して、具体的な資料提示や今後の改善点を書き入れる。そして、その具体策や改善点を探求活動に生かすサイクルを構築する。これにより、児童の取り組みはさらに向上したり、学びに迷った児童は修正したりすることができる。このサイクルを継続することで、児童は学習に対して最後まで向き合い、課題を解決する方法を知り、解決しようとする意欲が生まれる。それが、夢中で学び、自律して学び続ける力につながると考える。

(3) デザインされた教育活動を実践するために

- ・ 総合的な学習の時間だけではなく、各教科におけるプロジェクト型学習の実践に取り組む。その実現に向けて、センターから指導主事を招くなど、現職教育を行う。
- ・ 興味をもった内容や自らの考えの根拠となる資料を使うことができるように、各フロアに設置したプリンターを活用する。
- ・ 個別の対応のための評価設定や添削、資料作成、学年での話し合いなどの時間を確保する。

3 研究の方法

(1) 研究の流れ

- ① 低（1～3年）高（4～6年）の二つの部会に分ける。
 - ・ 部会では、推進部会が決めた目指す児童像の実現に向けて研究する。
- ② 各学年で単元の検討をする
 - ・ 目指す子どもの像の実現に向けて、具体的な教科・単元・手立てを検討する。
- ③ 実践を行う
 - ・ 実践期間を6～1月に設定し、各学年、各学級で継続的に実践を行う。

(2) 授業実践

- ・ 年間で1回は授業を公開し、ミニホワイトボードにて告知し、自由に参観し合えるようにする。
日程については、調整が必要なこともあるため、3～4日前までに、簡易指導案（教科・単元名・工夫した点などのみ ※やごひがデータ 0014 努力点にあり）を、努力点担当まで提出。
- ・ 学年で違う教科、または、同教科でも別単元で取り組むことで、「まなびのコンパス」についての知識を深める。

(3) 保護者への発信

学年便り（各クラスで実践するごとに、学年だよりに掲載する）、学校便り、ホームページを始め、様々な場面で実践の様子や取り組み、成果などを伝える。

(4) 研究のまとめ

10月の中間報告会、2月の最終報告会では、それぞれの学年の取り組みについて話し合い、実践の様子、成果と問題点を交流する。

4 年間計画

学期	月	全体会	推進委員会	各部会・学年	保護者への発信
1学期	4	本年度計画の周知	本年度計画案の検討		ホームページ
	5			目指す児童像と取り組む単元を決定	学年だより
	6	現職教育		授業参観	
	7				
2学期	9			中間報告	
	10				学年だより 実践と児童の様子①
	11			授業参観	
	12				
3学期	1		最終報告について	最終報告	学年だより 実践と児童の様子②
	2	最終報告会		授業参観	
	3	次年度の案			

※各クラスの実践後に、学年だよりで様子を発信する。